



フランス・ストラスブール大学歯学部と本学歯学部との学術交流協定締結の調印式[関連記事12ページ]

## 卒業生を送る



学長 新川 詔夫

北海道医療大学を卒業されるみなさんおめでとう。  
みなさんは入学以来、最初の教養教育においては我が国を支える市民としての教養・リテラシーを養い、その後の専門課程では「個体差健康科学に基づいてチーム医療を担う新医療人」としての専門的知識と技術・スキルを習得しました。なぜこのような周知のことに言及するかというと、「大学における高等教育の質の保障」が今まで以上に、社会から強く求められているからです。みなさんは絶えまぬ努力で、本学の卒業要件・基準を見事クリアしたのです。つまり、自分自身の学術的な知識や専門領域におけるスキルが卒業という節目をもって保障されたのだと自信を深めてください。堂々と胸を張って社会へ巣立って行ってください。本学で学んだ学識と経験は将来の人生にきつと役立つものになるでしょう。同時に今後も、「生命の尊重と個人の尊厳」という本学の教育理念のもと、礼儀正しく弱者に配慮するプロフェッショナルとしての医療人、地域社会ならびに国際社会へ貢献する医療人を目指していただきた

いと強く念願します。

また、今までみなさんへの支援を惜しみなかったご両親、家族、友人、先輩、そして指導教員および職員に感謝してください。学生の間はみなさんを直接支援する人たちが周りにいましたが、これからは原則的に1対多の世界に入ります。論語に「十五にして学に志し、三十にして立ち、四十にして惑わず」とあります。社会での本当の一人立ちは三十歳頃であり、みなさんにとってはあと数年しかありません。この間に、ぜひ自分自身を律し立つ強い心をもって「真に立つ」ことを目指してください。

最後に、卒業後も「母校愛」をぜひもち続けてください。本学は開学以来今年で38年目になりますが、全国には1万有余の先輩の方々が社会の第一線で活躍し、みなさんを温かく見守っています。本学教職員も、みなさんとは同窓会や後援会などで再会することがあろうかと思えます。そのとき立派に活躍している姿をみるのが楽しみです。また元気でお会いしましょう。

## CONTENTS

卒業生を送る	1
定年退職される先生からのメッセージ	2
2011年度入試結果速報	4
札幌開成高校特別講義 札幌北高校・札幌南高校インターンシップ	
歯科医療最前線	5
同窓会活動状況	6
私の学生時代	8
OG訪問[看護福祉学部臨床福祉学科]	9
授業レポート[全学教育科目編]	10
STUDENTS' ACTIVITIES & EVENTS	11
TOPICS	12
○ストラスブール大学と 学術交流協定を締結しました。	
EDITOR'S NOTE	

# Message

## 定年退職される先生からのメッセージ



薬学部 教授  
関崎 春雄

1974年の開校時に音別の教養部に開設された薬用植物学教室(主宰:木村康一初代薬学部長)の助手として赴任以来37年になります。健康に心配せずに過ごせたことを、丈夫に育ててくれた両親に感謝しています。

開設時の若いエネルギーを学生との植物採集や薬草園の整備に費やしたことが今の薬用植物園を発展させるのに多いに役立ったものと懐かしく思い出しています。1979年から2年間の永きにわたり、木村先生のご尽力でハーバード大学化学科(岸義人教授)に留学する機会に恵まれました。帰国後、薬学部の薬品物理化学に配置換えとなり、2003年から現在の創薬化学講座(生薬学)に移りました。従いまして、薬用植物学実習、無機化学、薬品物理化学、生薬学と時代とともに担当科目が変わったため、卒業生の会合にですと「私は先生に何を習った、

私は何だった」との話題で盛り上がりします。

恩師の「研究を続けるなら自分のアイデアで、良い雑誌に最低年齢分の論文をだしなさい」との言葉を守りたく必死に研究してきました。その研究生活の集大成として、大学側のご理解と薬用植物園の職員のご努力および大学院薬学研究科のご支援で、「北方系伝統薬物研究センター」を設置できたことは大きな慶びです。今後、皆様の有意義な活用を祈念いたしております。

最後になりましたが、永い間ご指導、ご協力頂いた教職員の皆様に感謝するとともに、本学の益々のご発展をお祈りいたしております。



薬学部 教授  
宮崎 正三

1981年10月に本学に赴任して以来、約30年の年月が経過しました。長きにわたり何とか恙なく職務を全うできたのは、偏に多くの皆様からいただいたご指導・ご支援によるものと、心より感謝しております。

「大学」は教育と研究の場であり、したがって、教員の仕事も教育と研究にあります。薬学における教育目標は薬剤師の養成にあり、学生諸君がこの目的を明確にし、大学生活を有意義に過ごし、卒業後は薬剤師として生き甲斐のある仕事をしてもらうことが大学教育に携わる一教員としての願いです。今後も、薬剤師としての使命感をもち、次世代の薬学を背負うリーダーが本学から一人でも多く育たれんことを願っています。

これまで、国内外の研究機関や医療施設と共同で、「薬物治

療の最適化および精密化」を目指したDDSの開発研究を実施してきました。特に、英国マンチェスター大学のAttwood教授との20年以上にわたる研究は、私自身の教育・研究の視点を広げる貴重な機会であり、公私とも忘れがたいものがあります。

今折しも、我が国の薬剤師をとりまく環境は大きな転換期を迎えています。2006年から薬学教育は大きく変わり、本学では6年制の薬学一貫教育が進行し、新たな教育・研究体制や付随する諸設備もほぼ整いつつあります。今後は、より一層、質的にも充実・発展していかれることを期待しています。

これまでご厚情・ご協力をいただいた多くの皆様に深謝申し上げますとともに、本学の益々の発展を祈念いたします。



薬学部 教授  
樋口 孝城

定年退職にあたり、私の我儘に長年お付き合いいただいた多くの方々に感謝いたします。1979年に当時は白糠郡音別町にあった東日本学園大学教養部に赴任してから31年余、有るか無きかの大学への貢献にも関わらず、無事定年の日を迎えられることを、心よりありがたく思っております。

私が主に接してきた学生は1年生でした。現役入学組は18歳です。赴任当時の私は33歳。学生との差は15歳。学生から見るとどうかはともかく、私自身は年長的にも、体力的にも学生に近いという感覚がありました。爾来、私は毎年1歳ずつ齢をとってきましたが、1年生は毎年18歳です。確実に1歳ずつ離れていきます。でも、ありがたい(かどうかはともかく)ことに、私自身の実感年齢は学生側に引き寄せられて、常に実年齢を下回っていました。こ

れを「いつまでも若い」というべきか、「いつまでたっても成長しない」というべきか、難しいところです。

所属は教養部、基礎教育部、薬学部人間基礎科学講座と変わってきましたが、私の気持は初年時教育に関わるということで、基本的に変わってきませんでした。これが果たして良かったかどうかわかりません。教育の望ましいあり方がとうとうわからないまま終わってしまいました。大学を取り巻く諸情勢の変化、学生の変化、これらに対応するには新しい発想が必要だと思います。北海道医療大学の次の時代を背負っていく若い方々に期待します。



歯学部 教授  
賀来 亨

私は昭和57年5月に助教授として歯学部口腔病理学講座(現、臨床口腔病理学分野)に着任し、初代教授奥山富三先生と共に講座の創設にあたりました。創設期には如何に教室員を増やすかなど様々な苦勞がありました。教室が徐々に整備されていく様子は伝統講座では味わえない喜びでありました。講義は全身疾患と口腔疾患を関連付けながら常に行っていました。学生との交流の機会を沢山もちました。基礎講座に大学院生を如何に集めるかいろいろ考えました。放課後学生と共に英語の病理学・口腔病理学の教科書、医学的トピックスなどの輪読会(時にドイツ語で)を積極的に行っていました。また、札幌医科大学の標本館・病理解剖見学など歯学部の学生に興味を持っ

て欲しいと思い、いろいろな企画を行って来ました。高学年の学生には将来の研修のために他の歯学部、医学部の口腔外科、病院歯科などを見学したいという希望があれば、出来るだけ積極的に研修施設を紹介しました。その結果、学生との交流の最も多い、また基礎講座では大学院生の在籍の最も多い講座を作りあげることができました。この間、全学共通講義の導入、90分授業から80分授業への変更など歯学部を含む教育改革に参画する機会を得たことも今思えば懐かしい思い出です。最後になりましたが、長い間のご支援を頂いた教職員と学生の皆様に心よりお礼申し上げます。今後の本学の益々の発展を祈念いたします。



歯学部 教授  
五十嵐 清治

本学に奉職して今日まで、大学には大変お世話になりました。私は1979年4月に着任致しましたが、教育者として、研究者として、さらには歯科医師として、他の大学や職場では経験できない実に様々な人生勉強、さらには貴重な体験をさせていただきました。

研究器械や器材が一切なくガラとした大研究室、着任早々の外来診療室の改修工事とはほぼ1年にわたる保存科診療室での間借り診療、開学当初は音別にあった教養部校舎への年1回の臨床特別講義をスタートに、教育・研究・診療のすべてが「ゼロ」からの出発でした。歯学部が開設されて2年目の年から今日まで、実に思い出多い貴重な勉強をさせていただきました。

32年間を経た今、学生諸君に願うことは、まず行動して欲しいと

いうことです。その場その時に与えられたチャンス、目の前の壁(?)、時には困難や不都合、嫌なこともあると思いますが、まずは行動してください。悔いの無いように頑張ってください。行動しないことには何も始まりません。そして行動すると必ず結果が出ます。その結果がポジティブであることに越したことはありませんが、ネガティブな結果はその時々活動のスパイスになるでしょう。

「頑張るなさい」とお尻を叩きはしませんが、悔いの無い楽しく充実した学生生活、人生を送って欲しいと願っています。

歯科界は特に今大変厳しい状況に遭遇しております。しかし、暗闇は必ず明け、太陽は昇り、輝かしい未来が開けます。どうぞ良い学生生活を送って下さい!!



看護福祉学部 教授  
倉橋 昌司

1981年4月、東京、旭川に続き、三つめの職場として当別の本学歯学部口腔生理学講座に赴任、その後、1993年に新設された看護福祉学部看護学科生命基礎科学講座に異動し、早30年が経過します。大学では、口腔生理学、人体機能学(生理学)を担当し、歯学部、看護福祉学部ばかりでなく、薬学部や歯科衛生士専門学校の学生諸君とも親しく学ぶことができました。生理学は、いずれの学部、専門学校においても専門基礎となる科目であり、「ヒトの生きる仕組み」を理解しようとする学問です。また生理学は、将来ヒューマンケアのそれぞれの分野の専門職業人を目指す学生のみなさんにとって、己を知り、他人を理解するための必須の学問でもあります。多くの学生のみなさんは、在学

中、生理学は難しい、勉強も大変だと感じるようです。しかし、卒業生の先輩からは、異口同音に、学生時代もっと生理学を勉強しておけばよかったとの反省の声が聞かれます。毎日、規則正しく、よく動き、よく食べ(少し飲む?)、よく休むことは、誰にとっても生活の基本であり、最も重要なことと考えます。学んだ学問も自分の生活に生かすことがなければ、まさに机上の空論です。是非是非、日頃の学習の成果を毎日の学生生活に生かして下さい。

最後になりましたが、この30年間、ともに大学生活を過ごした教職員の方々と学生のみなさんに心より深く感謝申し上げますとともに、みなさまの今後のさらなるご活躍をお祈り申し上げます。



看護福祉学部 教授  
館山 碧

1976年4月、朝、列車で当別に着き、スクールバスで大学へ。この日から35年間の札幌と当別金沢との往復が始まった。退職する者のメッセージには少々ずれているが、35年前の列車での通勤、通学状況を知る人も少なくなったので、記憶をたどり、書き記します。

当時は札沼線下り札幌発8時30分ごろの列車で当別へ。駅前にはスクールバスが待っており、「おはようございます」と言いつつ乗り込む。大学着9時20分頃。玄関(現在の「薬ロビ」と呼んでいるところ)でタイムレコーダーを押す。講義は9時30分始まりだったと思う(事務は9時始まり)。帰りは17時頃、チャイムが鳴り、帰り支度し玄関へ。また、バスが待っており、当別駅へ。17時20分頃の上り札幌行きに乗る。学生の講義、クラブ活動もすべて列車の時刻によって制約されていた。

朝、大学に入ると17時まで大学から出る手段はタクシーを呼ぶか、車通勤の人に頼むしかなかった。この頃の札沼線停車駅は札幌、桑園、新琴似、篠路、東篠路、釜谷白、太美、当別であり、札幌—当別間の所要時間は40分から50分だった。

一時期(1980年頃)、一年間ほど、札幌の大通の日銀横からスクールバスが出ていた。帰りもバスで大通まで送ってくれた。このときは9時出勤厳守。その後1984年、大学前に駅舎ができ、「大学前」で乗降できるようになり、現在に至っている。

今後への期待、複線化し列車本数が増えること、快速ができ所要時間が短縮すること、冬期間の除雪体制の充実です。

最後に、教職員、学生の皆様のおかげで無事、35年間過ごしてまいりました。ありがとうございます。

## 北海道医療大学

## 一般前期入試の志願者数は増加。

本年度は1月30日・31日の2日間の日程で、札幌をはじめ、東北から関東、関西、九州までの全国13会場で一般前期入試を実施しました。ほとんどの学科で志願者数は増加し、看護福祉学部看護学科は、実質競争倍率は昨年の6.6倍から8.0倍に上昇しました。

## センター前期入試は募集回数が2回。

センター前期Aは3教科型、センター前期Bは2教科型入試です。大学独自の試験は行わず大学入試センター試験の得点のみで合否判定を行うほか、それぞれの日程に出願できるので、両方に出願した場合は合格のチャンスが2回に増えることになります。本年度の志願者数は、昨年並でした。

## 編入学2期に15名の志願。

11月に行われた1期試験に続いて、1月30日に看護福祉学部と心理科学部の3年次、1月31日に薬学部3年次、歯学部2年次の編入学試験を札幌、東京、大阪の3会場で実施しました。全体で15名の志願がありました。

## 歯学部附属歯科衛生士専門学校

## 実質競争倍率は1.0倍。

1月31日に札幌会場で、一般前期(B日程)入試を実施しました。志願者数は2名で、2名が合格、実質競争倍率は1.0倍という結果となっています。

## ■2011年度 一般・センター前期入試結果

※( )内は前年度実績

学部・学科名	入試形態	募集人員	志願者数	受験者数	合格者数	実質倍率
薬学部 ●薬学科	一般 1/30	63 (63)	204(200)	195 (193)	127 (129)	2.5(2.2)
	前期入試 1/31		138(108)	124(91)		
	センター 前期入試	A	15 (15)	200(180)	200(180)	52 (69)
	B	10 (10)	102(94)	102(94)	38 (41)	2.7(2.3)
歯学部 ●歯学科	一般 1/30	30 (36)	27(46)	25 (41)	28 (48)	1.5(1.4)
	前期入試 1/31		21(37)	16 (24)		
	センター 前期入試	A	6 (8)	48(64)	48(64)	46 (60)
	B	4 (6)	38(50)	38(50)	38 (49)	1.0(1.0)
看護福祉学部 ●看護学科	一般 1/30	36 (36)	406(398)	402 (394)	92 (91)	8.0(6.6)
	前期入試 1/31		350(217)	333 (206)		
	センター 前期入試	A	6 (6)	203(208)	203(208)	41 (43)
	B	4 (4)	117(154)	117(154)	25 (45)	4.7(3.4)
●臨床福祉学科	一般 1/30	32 (32)	103(84)	102 (84)	110 (91)	1.7(1.4)
	前期入試 1/31		92(51)	86(47)		
	センター 前期入試	A	6 (6)	66(53)	66(53)	66 (51)
	B	4 (4)	57(59)	57(59)	56 (58)	1.0(1.0)
心理科学部 ●臨床心理学科	一般 1/30	25 (25)	132(106)	131 (104)	103 (102)	2.3(1.7)
	前期入試 1/31		111(72)	103 (67)		
	センター 前期入試	A	6 (6)	95(84)	95 (84)	57 (51)
	B	4 (4)	94(82)	94 (82)	44 (68)	2.1(1.2)
●言語聴覚療法学科	一般 1/30	15 (15)	113(85)	112 (84)	76 (73)	2.8(1.8)
	前期入試 1/31		102(56)	99 (51)		
	センター 前期入試	A	6 (6)	77(55)	77(55)	37 (37)
	B	4 (4)	67(66)	67(66)	50 (53)	1.3(1.2)
合計	一般 1/30	201 (207)	985(919)	967 (900)	536 (534)	3.2(2.6)
	前期入試 1/31		814(541)	761 (486)		
	センター 前期入試	A	45 (47)	689(644)	689(644)	299 (311)
	B	30 (32)	475(505)	475(505)	251 (314)	1.9(1.6)

## ■2011年度 編入学試験(2期)結果

※( )内は前年度実績

学部・学科名	入試形態	募集人員	志願者数	受験者数	合格者数	実質倍率
薬学部 ●薬学科	社会人	3 (3)	1 (2)	1 (1)	0 (0)	—(—)
	一般		4 (4)	4 (4)	1 (1)	4.0(4.0)
歯学部 ●歯学科	一般	若干名(若干名)	1 (5)	1 (4)	1 (4)	1.0(1.0)
	看護福祉学部 ●看護学科	社会人	1 (1)	1 (1)	1 (1)	1.0(1.0)
●臨床福祉学科	一般	3 (3)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	—(—)
	社会人	3 (3)	1 (1)	1 (1)	1 (1)	1.0(1.0)
	一般		0 (0)	0 (0)	0 (0)	—(—)
	指定校		0 (0)	0 (0)	0 (0)	—(—)
心理科学部 ●臨床心理学科	社会人	若干名(若干名)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	—(—)
	一般	1 (0)	1 (0)	0 (0)	—(—)	
●言語聴覚療法学科	社会人	3 (3)	3 (2)	3 (2)	2 (1)	1.5(2.0)
	一般		3 (2)	3 (2)	1 (2)	3.0(1.0)
合計		—(—)	15(17)	15(15)	7(10)	2.1(1.5)

## ■2011年度 一般前期(B日程)入試結果

※( )内は前年度実績

学科名	入試形態	募集人員	志願者数	受験者数	合格者数	実質倍率
歯科衛生科	一般前期入試(B)	5 (5)	2 (3)	2 (3)	2 (3)	1.0(1.0)

札幌開成高校特別講義  
「プレ先端科学特論」の実施について

2011年1月11日(火)と12日(水)の2日間にわたり、札幌開成高校コスモサイエンス学科1年生52名を対象に、特別講義「プレ先端科学特論」を実施しました。

テーマは「自分の遺伝子を解析してみよう。世界の最先端・糖鎖について知ろう」。初日は新川詔夫学長、個体差健康科学研究所太田亨准教授らによる遺伝子の基礎についての講義と、自分の口腔細胞からDNAを抽出し、耳垢型遺伝子を解析する実験を実施。2日目は大阪大学名誉教授で同大学産業科学研究所寄附研究部門の谷口直之教授、理化学研究所オミックス基礎研



究領域の石川智久先生を招き、糖鎖などに関する特別講演と、タマネギからDNAを抽出する実験、初日の実験結果の確認とグループ毎による討議を行いました。

遺伝子解析や世界の最先端の講義など、大学ならではの授業を体験し、有意義な時間を過ごしたようでした。

札幌北高校・札幌南高校  
インターンシップの実施

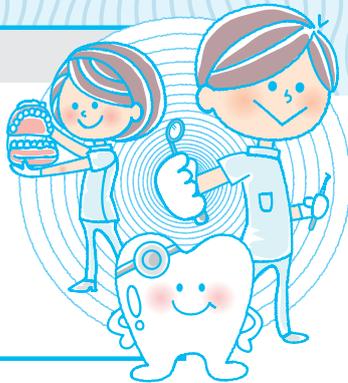
2011年1月6日(木)に札幌北高校が、1月12日(水)には札幌南高校がインターンシップで本学と大学病院を訪れました。札幌北高校は計23名が薬剤師と臨床心理士のグループに分かれ、大学病院で職場体験を実施。札幌南高校は計7名が薬剤師と遺伝子研究グループに分かれ、調剤体験や模擬講義、耳垢遺伝子の実験などを行いました。

本学での体験を通じて、医療や研究への関心がより深まったようでした。

# 歯科医療 最前線

vol.1

〔再生医療・インプラント編〕



## 折れた歯、抜いた歯もよみがえる!?

### 急速に進展する「再生医療」 歯を作り直せるかもしれません

顔面でボールを受けて前歯が折れた、虫歯がひどくて抜歯した。こういう場合、さし歯や入れ歯で補うことは知られていますが、もし、新しい歯を作って元通りにできたらいいと思いませんか。そんなことを可能にするのが「再生医療」。失われた体の一部や正常に働かなくなった臓器に代わるものを細胞から新たに作って機能を取り戻そうという医療です。幹細胞、ES細胞、iPS細胞という言葉聞いたことがあるでしょう。再生医療は臓器移植などに代わる最先端の医療としてあらゆる医学分野で研究されています。

歯科分野でも、自分の細胞を培養して自然の歯と同じ性質の歯を作り口の中で成長、再生させる研究が行われています。まだ、歯の作り方、適切な細胞を探る段階で

ですが、めざましい勢いで進行中なので、将来実現させるのはこれを読んでいるあなたかもしれません。部分的な再生であれば、本学ではすでに、不要な歯を粉砕してあごの骨の再生に使う技術や、歯の象牙質を再生する治療技術などが開発されています。

抜いた歯に含まれる歯髄細胞の再生力に着目し、将来の臓器や皮膚の再生に備えようという「歯髄細胞バンク」も全国で始まっています。本学歯学部にも抜いた歯を歯根に付いた細胞ごと凍結保存する「歯の銀行」があります。

### まるで自分の歯みたい! 骨と一体化するインプラント

最先端の治療法をもう一つ紹介します。「インプラント」です。インプラントは歯を抜いた後、あごの骨に埋め込む人工の歯根で、骨とくっついて土台となります。ここに

人工の歯を固定するので、浮きやぐらつき感がなく、自分の歯のようにしっかり噛めるのです。半世紀前から普及している治療法ですが、最近ではコンピュータの活用で精度も格段に向上しています。

再生医療、インプラントと歯を失った後の話をしましたが、できるだけ長く健康な歯でいるための研究もあります。老化のメカニズム究明などに取り組む老化制御医学もその一つ。歯科医師は未来の誰かのために「こんなことできたいいな」という夢からスタートできる仕事なのです。

歯を抜いても  
また生えてきた!?



## TOPICS

### 重い虫歯も神経を抜かずに治療できます。

歯の寿命を延ばすために歯の切削を最小限にとどめるミニマルインターベーションが現在の歯科医療の潮流です。私の研究グループではそれに再生医療からアプローチし、これまでに、重い虫歯でも象牙質を再生することで神経を抜かずに治す技術を独立行政法人産業技術総合研究所と共同で開発しました。すでにラットやイヌの歯で象牙質再生を確認済みで、現在実用化を目標に臨床前データを積み重ねています。また、特許を取った再石灰化促進剤を使い、初期の虫歯なら削ることなく治す治療法にも取り組み、こちらも動物実験に入りました。

歯学部 齋藤 隆史 教授

本学大学院歯学専攻博士課程を修了し、本学歯学部助手、アメリカノースカロライナ大学留学などを経て2003年より現職。道東・標茶町出身。



神経や血管がある歯髄に達し激しく痛む虫歯は、象牙質を削って歯髄を取り除き金属などをかぶせるのが一般的な治療ですが、歯髄を除去した歯はもろくなるのがネックです。齋藤教授らの開発した、象牙質に特異なタンパク質・フォスフォオリシンとコラーゲンを使って象牙質を再生する技術なら歯髄は残したまま、画期的な治療法です。

## 薬学部



薬学部  
同窓会会長

田中 稔泰

薬学部同窓会は1979年に発足し、活動を行っているところです。2006年に薬学部6年制がスタートし、現在の最高学年が5年生ですので、昨年の卒業生は若干名しか出でらず、約4600名の会員数であります。

同窓会活動としては、全国15支部(道内6、道外9支部)で活動を行っており、各支部では、毎年、医療薬学セミナーと同時に総会や懇親会を開催し、その地域での薬業、医療に関する情報交換を行っております。また、毎年開催される日本薬剤師会学術大会開催地においては、例年その地域の支部が当番幹事となり、懇親会を開催しております。同窓会の活動はこのような会員同士の交流を深めながら、それぞれの仕事やモチベーションを高めることを

一つの目標としておりますので、全国の同窓生が一様に参画できるよう支部役員の協力を得ながら活性化を図り、行ってまいりたいと考えております。また、近年、私立薬学部の新設が相次いだことから、全国の私立薬学部において入学者の定員割れを起こしている大学もあり、今後厳しい状況が到来する可能性があるかと認識しております。我々同窓会としても、この点において大学に寄与できるように努力してまいりたいと考えております。

創設年:1979年 会員数:4,600名  
<http://www.hoku-iryō-u.ac.jp/~phalumni/>

## 歯学部



歯学部  
同窓会会長

藤井 健男

歯学部同窓会は、会員の福祉と親睦ならびに学術研鑽を図り、さらに本学歯学部発展への寄与・貢献することを目的に、第1期生が卒業した1984年に設立されました。

主な同窓会活動は、会員相互の情報共有に関わる広報事業として、同窓会会報発行やホームページ(HP)の運営を行っています。HPのセキュリティ強化策として、会員個別にID・パスワードを配布しています。さらに求人情報提供掲示板をHP内に設置し、就業関連に関するサーフェティネットワークの構築を進めています。また、会員の資質向上に関わる学術事業として、デンタルトピックスの発刊、全国各地で歯科臨床セミナーや学術講演会を開催して、会員が研鑽と交歓する機会を設け、同窓会活動の活性化を図っています。

現在、別表に示す全国10箇所の地区同窓会とそれに帰属する各都道府県単位の支部があり、地区連絡協議会・支部長会議等を開催して同窓会の結束と連携の充実に努めています。

さらに、歯科医師国家試験の難化と歯科医師臨床研修制度の施行により、変容する歯科界への対応が在学期から必要であるとの認識に立ち、2007年度から歯学部学生の準会員制度を開始しました。現在、夏期、冬期休暇時などに同窓生の開業歯科医院への見学希望をサポートする制度を運用しています。

また、2010年9月には、全国歯科大学同窓・校友会懇談会の当番校を務めました。今後も、他校同窓会・校友会との交流を深め、歯科医療の一翼を担う責任を果たせるよう努力していきたいと思っております。

創設年:1984年 会員数:約2,700名  
<http://www.hoku-iryō-u.ac.jp/~d-alumni/dousokai-honbu@clock.ocn.ne.jp>  
事務局 札幌市中央区宮ヶ丘1-1-21  
TEL 011-621-7403 FAX 050-3355-6837

## 看護福祉学部／看護学科・札幌医療福祉専門学校／看護学科



看護学科  
同窓会会長

川村 武昭

福慧会(看護学科同窓会)は1997年に発足して、今年度で14年目を迎えました。ひとえに卒業生の皆さまを始め、大学並びに関係団体の皆さまの日頃からのご協力のお陰であることに感謝しております。

主な活動内容としては、臨床福祉学科と協働で取り組んでいる看護福祉学部同窓会セミナー及び看護福祉学部学会の企画及び運営を主軸に、4学部及び歯科衛生士専門学校とともに協働で開催している同窓会連絡協議会や同窓会コラボ講演会があります。また、これらの活動状況や各地で活躍する同窓生の近況報告等を卒業生の皆さんにお伝えするものとして会報誌の発行やホームページの運営、同窓生同士の繋がりを保つものとして同窓会名簿の発行を三年毎に行っています。そして、同窓会活動の方向性について話し合う場として役員会を開催しており、活動の幅は年々広がっています。

間もなく会員数2,000名を数える大きな会へと発展してきているため、今後

は道内の活動に留まらず、日本各地に活動の拠点を広げていきたいと考えています。また、日本各地で日々奮闘している同窓生の皆さんが、今後、益々活躍していくための一助になるように、各期幹事はじめ役員一同で同窓会活動を盛り立てていきたいと考えておりますので、いつでも気軽な気分で同窓会活動に目を向けていただきたいと思います。

これからも常に足下を見直していきたいながら、同窓生同士の交流と学校との繋がりを大切に活動を行ってまいりたいと考えていますので、これからもどうぞよろしくお願いいたします。

創設年:1997年 会員数:約1,900名  
<http://www.hoku-iryō-u.ac.jp/~kango/kango@hoku-iryō-u.ac.jp>

## 看護福祉学部／臨床福祉学科・札幌医療福祉専門学校／介護福祉学科



臨床福祉学科  
同窓会会長

小畑 友希

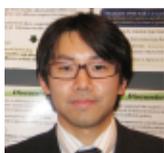
昨年、発足から10年目を迎えた臨床福祉同窓会は、役員として新たに3名が加わり、8名体制で活動を行いました。看護学科と共同企画である「看護福祉学部同窓会セミナー」と「看護福祉学部学会」の開催は、連携による学びの場として定着してきています。また、同窓会連絡協議会にも参加し、他学部との連携も深めていきたいと考えております。役員会は年5～6回行われ、今後の活動について議論を重ねています。また、現在ホームページ開設準備をしております。

ホームページは活動を広げるものとして期待でき、例えば、同窓会活動のタイムリーな発信であったり、これまで予算の関係で難しかった会報誌の発行も

ウェブ上で行うことも可能になります。イチローの「夢や目標を達成するには1つしか方法がない。小さなことを積み重ねること」ではないですが、同窓生にとって、少しでも身近に感じてもらえる同窓会になるように、少しずつ歩みをすすめて参りたいと思っております。今年も皆様のご理解ご協力を賜りますようお願いいたします。

創設年:2000年 会員数:約2,000名  
[fukudo@hoku-iryō-u.ac.jp](mailto:fukudo@hoku-iryō-u.ac.jp)

## 心理科学部／臨床心理学科



臨床心理学科  
同窓会会長

本谷 亮

2006年に設立した臨床心理学科同窓会も今年度で5年目を迎えました。日頃、本同窓会活動にご理解、ご支援いただいております皆様には心から感謝しております。

今年度も、昨年度に引き続き本同窓会主催の同窓会セミナーを開催いたしました。札幌市内のサテライトキャンパスでの開催にも関わらず、道内各所から足を運んでいただき(市外参加者が約30%)、情報交換も活発になされ、大変盛り上がりました。来年度も多くの方に興味を持っていただけるような同窓会セミナーを企画しております。また、今年度から同窓会役員の約半数が新しい顔ぶれとなりました。これまで以上に役員同士が連携をとり、同窓会活動が充実するように努めております。ホームページの充実、親睦会の実施、会報

誌発行、新規会員の入会活動、および他学部同窓会との連携等を滞りなく行い、かつ同窓生の横と縦をつなぐ役割が担えるよう力を注ぎます。活動状況や近況報告等をお伝えする今年度の会報誌は、現在作成中です。完成次第発送しますので、同窓生の皆さんはもうしばらくお待ちください。

同窓生のニーズに応えられるよう取り組みますので、今後もどうぞよろしくお願いいたします。

創設年:2006年 会員数:約400名  
<http://www.hoku-iryō-u.ac.jp/~p.dousou/shinri-dousokai@hotmail.co.jp>

心理科学部／言語聴覚療法学科・札幌医療福祉専門学校／言語聴覚療法学科・言語聴覚療法専攻学科



言語聴覚療法学科  
同窓会会長

伊藤 健

あいの里ST会(言語聴覚療法学科同窓会)は前身の札幌医療福祉専門学校言語聴覚療法学科同窓会から通算し創立17周年を迎えました。会員数は専門学校卒業生と大学卒業生を合わせ720名と段々規模が大きくなっています。全国各地で同窓生が活躍しており、そろそろ支部活動にまで発展させていきたいと考えているところです。

主な同窓会活動は、定例の総会開催や会報発行のほか、「言語聴覚療法公開講座」の開催、昨年度で第3回目の他学部・学科との「学術講演会」を開催いたしました。また各同窓会との「同窓会連絡協議会」を定期的に開催し、職種は異なりますが、同じ医療従事者として様々なお話しをする機会をいただき、大変勉強になっております。2009年度から実施した、メーリングリスト

も徐々にではありますが、活用の場が広がっているように思います。

今年は、ホームページのリニューアル、メーリングリスト活用による会員の皆様と密な情報交換をできるような体制の準備など、ひとつひとつ改良・修正をしていき、同窓会活動の活性化を図っていきたいと考えております。

これからも大学や他学部・学科同窓会との繋がりを大切に、今後さらに、言語聴覚士の“北の拠点”として運営努力を重ねていきたいと思っております。

創立年:1994年 会員数:720名  
st-kai@hoku-iryuo-u.ac.jp

北海道医療大学同窓会支部連絡先

■薬学部

支部名	支部長(期)	連絡先
札幌支部	多田 正人(4)	☎011-812-2311
道北支部	野田 敏宏(11)	☎0166-23-6611
十勝支部	中村 章(1)	☎0155-62-0611
道南支部	小林 隆宏(8)	☎0138-46-4651
釧根支部	徳田 宏司(6)	☎0154-52-5052
ホーツク支部	大谷 昌弘(4)	☎0157-67-6620
青森支部	三上 章(1)	☎017-728-3200
栃木支部	橋本 秀雄(3)	☎0282-27-2264
茨城支部	西野 郁郎(1)	☎0293-42-0239
北越支部	杉本 雅規(3)	☎0761-23-1589
神奈川県支部	川田 哲(3)	☎045-742-2301
東海関西支部	高尾 信彦(2)	☎053-451-0821
中四国支部	勝原 聡(3)	☎082-291-2104
九州支部	山田 昌人(3)	☎0965-25-5750
沖縄支部	伊波 重宏(5)	☎098-874-1818

■歯学部

支部名	支部長(期)	連絡先
北海道支部連合会	加藤 友一(4)	かとう歯科医院 ☎0134-23-8348
青森県支部	佐藤 孝治(2)	佐藤歯科医院 ☎0172-36-0412
秋田県支部	竹内 享(7)	竹内歯科医院 ☎0182-22-2001
岩手県支部	宮川 和亮(5)	宮川歯科クリニック ☎0198-23-1070
宮城県支部	佐々木隆二(6)	ささき歯科 ☎022-383-8849
山形県支部	金子 成一(1)	金子歯科医院 ☎0238-23-0909
福島県支部	早坂 弘(4)	早坂歯科医院 ☎0248-24-6480
茨城県支部	秦 博文(2)	秦病院 歯科 ☎0294-36-2551
栃木県支部	斎藤 真一(3)	斎藤歯科クリニック ☎0285-27-1234
群馬県支部	篠崎 広治(1)	しのざき歯科医院 ☎0276-48-0118
埼玉県支部	上野 洋(5)	上野歯科医院 ☎048-756-4499
千葉県支部	寺山 功(4)	葉山歯科医院 ☎0471-64-6480
東京都支部	石野 善男(2)	二子玉川ガーデン矯正歯科 ☎03-5491-5454

■看護福祉学部 ☎0133-23-1211

- 看護学科(内線3688)担当:伊藤・明野(実践基礎看護学講座)
- 臨床福祉学科(内線3708)担当:池森(医療福祉臨床学講座)

支部名	支部長(期)	連絡先
神奈川県支部	宮平 暁(5)	みやひら歯科 ☎045-590-4601
山梨県支部	古屋 修(4)	境川村立診療所 歯科 ☎0552-66-2533
石川県支部	久保 伸一郎(2)	粟津歯科医院 ☎0761-44-4852
新潟県支部	布施 路子(6)	静雅堂歯科医院 ☎025-723-8840
長野県支部	小池 文一(2)	小池歯科医院 ☎026-224-1482
愛知県支部	木村 英雄(1)	こめの歯科医院 ☎052-451-1182
京都府支部	相模 宣伸(5)	サガミ歯科医院 ☎075-311-2773
大阪府支部	西 一幸(1)	西歯科医院 ☎06-6793-7500
広島県支部	山田 賢一(2)	山田歯科医院 ☎082-927-2200
四国支部	谷本 良司(3)	医療法人谷本歯科医院 ☎0883-42-2069
九州支部	清川 宗克(3)	清川歯科・口腔外科クリニック ☎092-822-8805
沖縄県支部	玉城 均(1)	ながた歯科医院 ☎098-854-1182

■心理科学部 ☎011-778-8931(学務部 心理科学課)

- 臨床心理学科
- 言語聴覚療法学科

歯学部附属歯科衛生士専門学校



歯科衛生士専門学校  
同窓会会長

梶 美奈子

4月入学式、6月同窓会誌“いずみ”発行、9月歯科衛生士セミナー、11月理事会、2月卒業生に向けた同窓生からの講義、3月北海道医療大学同窓会コラボ☆講演会・卒業式など理事や会員の皆様のご協力をいただいて進めております。

昨年のADVANCEで「変わらなきゃ」というメッセージを発信させていただきました。皆様1年間振り返っていかがでしたか?少し変わりました?それとも変わってない?.....

同窓会は、少しだけ変わりましたよ。2009年まで毎年9月に行われていた歯科衛生士公開講座は、主に大学主導でお世話になってばかりでした。しかし、2010年からは同窓会主体となり、名前も歯科衛生士セミナーに変わりました。

した。昨年から、大学事務の方々にご指導いただきながらではありますが講師の選出など自立の道を歩み始めたところです。歯科衛生士は歯科医師の指示の下に歯科医療に従事する職種ですが、指示を待つだけの職種ではありません。いろいろな方々とネットワークを作り、持ちつ持たれつ向上していけたらよいですね。

創立年:1991年 会員数:939名  
http://www.hoku-iryuo-u.ac.jp/~katakuri/  
okahashi@hoku-iryuo-u.ac.jp

歯学部附属歯科衛生士専門学校同窓会支部連絡先

北海道医療大学歯学部附属歯科衛生士専門学校 ☎0133-23-1211(内線3482)担当:大山・岡橋

卒業生を対象とした各セミナー・  
公開講座に関するお問い合わせ先

広報・教育事業部  
教育研究推進課 ☎0133-23-1129(直通) e-mail:nice@hoku-iryuo-u.ac.jp

## 長い学生生活と放浪癖

歯学部  
歯学科

准教授 橋本 正則



学部学生時(九州大学)はバイク好きで日本各地を徘徊する生活を送っていました。バイトをしてツーリング費用を工面したり、バイク用品を買うということに夢中になっていました。バイクはオンロード(Kawasaki GPZ400R)、オフロード(Kawasaki KDX250)の2台を所有。バイクに荷物をつんで、時にはテントも積み込み福岡を始点



愛車Kawasaki GPZ400R

ひとに語れるような学生生活ではなかったのですが...

心理科学部  
臨床心理学科

講師 松本 由起子



学生時代はいわゆるモラトリアムだった。大学が放任主義だったのをいいことに、授業もそれほど出ていない。ではなにをしていたかという、なにもしていなかったもので、これといった話がなく、今回も2枚写真を添えるようにとのことだったが、適切な学生生活をしていなかったため適切な写真が存在せず、写真なしとなった。

当時のシステムでは、学部の3年になる段階で専門を選ぶことになっていた。が、モラトリアム中で、ここに行きたいといった希望があるはずもなく、自分で自分の将来を決めるようなことはもちろんしなかった。学生相談室に行って、この授業がおもしろかった人はなにを専門すればいいのかと尋ね(たしか「生活科学2」という科目

として日本列島を南は沖縄・南波照間島から北は宗谷岬、礼文島まで2周したのがきっかけで放浪癖が身に付いた気がします。

大学卒業後、2年間の研修医生活を経て大学院(北海道大学)に進学。大学院の入学試験と合格発表があり、入学の手引には「飲酒時の注意点」とか「恵迪寮の入寮案内」なども同封されていて、“いい年してまた学生になったんだ”と思った記憶があります。さらに学生証で学割が効いたり、大学院講義なる授業などもあり、嬉しいやら悲しいやら、また4年間の学生生活が始まりました。大学院では比較的時間が自由であったことから、学会がらみや個人旅行でのアメリカ、中国などへの海外放浪?が一つの楽しみでした。

大学院修了後、岩手医科大学勤務を



アムステルダムのカフェにて、イタリア(右)、ペルー(中央)の大学院生と私(左)。

経て2年間の海外研修の機会に恵まれ、アメリカ、オランダ、ベルギーの3大学に留学することができました。アメリカ(ジョージア医科大学)はポストドクが主体で大学院生と交わることは少なかったのですが、オランダ(アムステルダム大学)のラボは大学院生が主体でポストドクは私だけでした。イタリア、ペルー、エジプト、イランなど世界各国の大学院生たちと大学院生部屋にて机を並べ、また学生に逆戻りした気分になりました。留学中も放浪癖が再燃、学会での出張を含めてアメリカ各地、ヨーロッパ12カ国にアクセスすることができ、大きな思い出となりました。

## 私の学生時代

今、本学の教壇に立たれている先生たちは、学生時代をどのように過ごしていたのでしょうか。

今回は橋本准教授と松本講師のお二人に、当時の様子を語っていただきました。

で、ラカン派の先生がフロイトを読ませる授業だった)、教育学部の臨床心理専攻だろうと言われたので、そうした。そしてある夏休みが終わった頃、就職活動も終わっているらしいと気づいて、では大学院へということになった。その大学院が実質的なカウンセラー養成所だということは、ちょっと考えればわかったはずだが、その時は考えなかった。修士1年の冬、クライアントを持つことが避けられない情勢になってはじめて、臨床心理というと人の治療にあたらなといけなのだと悟り、道を誤ったことに気づいた。が、引き続きモラトリアム中だったので手を打つでもなく、時は流れ、修士も終わりに近づき、それまで指導してくださっていた先生が退官なさることになった。当時の所属で、臨床と関係ない文献研究を指導していらしたのはその先生だけで、その先生がいなくなれば、臨床関係の論文でないと指導を受けられなくなる。そこで

やっと、ここにいても未来がないとわかった。が、相変わらずモラトリアム中だったので、どうしたものかと思いつつ、そのまま博士に進んだ結果、どうにも辻褄が合わなくなり、別の大学院に移動したり、語学を覚える必要に迫られたりすることになったのだが、字数も尽きてきたので後は省略する。

とにかく長く緩慢な学生生活だった。こうして振り返ってみると、思っていたよりひどい。その時は、みんなそんなものかと思うともなく思っていたような気がするが、今、学生を見る立場になってみると、とてもみんながそうだったとは思えないほどひどいような気がする。いまさら反省してどうなることでもないが。

# OG訪問



今回ご紹介するのは、看護福祉学部臨床福祉学科の卒業生、江田さんです。精神保健福祉士と社会福祉士のダブルライセンスを取得し、北海道・遠軽（えんがる）町の病院で精神科ソーシャルワーカーとして活躍しています。

遠軽学田病院 精神科ソーシャルワーカー  
江田 抄穂さん（看護福祉部臨床福祉学科2006年卒業）

## ■ 広いけれど小さな町のPSW

オホーツク海から20kmほど内陸に入った、東京23区の2倍の面積に2万2400人余りが暮らす遠軽町。江田さんは本学卒業後、出身地・美幌町に近いこの町で精神科、神経科、内科をもち、精神科一般病棟に加え認知症治療病棟も有する遠軽学田病院に就職しました。4年近くの精神科病棟担当後、現在は外来と認知症治療病棟を担当し精神保健福祉士資格をもつソーシャルワーカーとして活躍中です。

同院は、愛知県ほどの広さがあるオホーツク遠軽圏域で2つしかない精神科のある病院の一つで、ソーシャルワーカーのカバーする範囲は地理的にも職務的にも広域です。「でも、広くても小さな町。協働、連携はスムーズです」。地域で生きるソーシャルワーカーとして、キャリアは丸5年を迎えます。

## ■ 聞くこと、出会うこと

江田さんはとても聞き上手です。ソーシャルワークは支援を必要とする方のために現在ある制度を駆使して複数の職種、機関をつなぐ仕事で、話を聞くことが第一歩であると考え、まさに天職といえます。

この仕事をめざした理由も、人の話を聞くのが好きだから。「高校時代、いのちの電話などで相談を受ける仕事に就きたいと言ったら、そ



外来では受診相談、初診患者さんのインテーク（診察前の面接）、制度の説明など、病棟では入院時のアナムネーゼ（既往歴や入院歴などの確認）、家族調整、療養上の相談、退院援助などを担当。月に6、7回は看護師と共に訪問看護も行います。



同院のソーシャルワーカーは江田さんを含めて2名。同室の臨床心理士1名は本学卒業生です。

れは職業じゃないと言われて…」と苦笑い。その後ソーシャルワーカー、精神保健福祉士を知り「話を聞くことが仕事になり、しかも、一見ただけではわかりづらい病気や障がいの奥にある人の尊厳、生きがいに光を当てる仕事だ!」と思い、目標に定めました。

江田さんが仕事で出会う患者さんは10代から100歳過ぎまで幅広い層です。自分と同じ年代でも違う人生を生きている人、何十年も先の人生を生きている人…、たくさんの人生に耳を傾け、本人・家族の毎日がよりよい方向へ向かうよう、今日も様々な職種と協働、連携を進めています。

## ■ 大学で学んだところ、連携

「学生時代、現場で活躍中の先生からたくさん話を聞き、実習でいくつも現場を見ましたが、当時は事の偉大さが理解できていなかった



なと思います」と江田さん。現場に身を投じてから、学んだことが「新たな気づき」として自分のものになっていくのを感じています。どの先生のどの言葉、というピンポイントではなく、本学の4年間の学びで自然に福祉のところが育っていったといいます。

もちろん思い出もたくさんです。とくに部活。4年間、大学祭実行委員会の借用課で、毎年25店以上ある出店者への物品の貸し出し、レンタル手配の調整などを手がけました。学生時代にすでに連携、協働を経験し、自身の調整能力も十分に発揮していたのです。規模の大きな学祭を運営する苦楽を共にした仲間は30名ほど。いまでも交流が続いています。

## ■ 春を招く大切な存在

「患者さんの持つ力の芽をつまない」「患者さんが決定する」ことを意識しながら仕事をする江田さん。「しんどいわーと思うこともありますが、『こうしてほしい』と自分で訴えられない患者さんの気持ちをくみ取り、様々な職種と協力し新しい方向性を示して、軌道に乗ったときの安堵感、患者さんやご家族とのつながりを思う度、この仕事から離れられないなと思います」。

オホーツク海一面を閉ざしていた流水も去り、海明けの季節を迎えました。この時期の海は栄養もひととき豊富です。たくさんの価値観、視点の中で揺れ動きながらベストの道を探す

ソーシャルワーカーは、江田さんの言う通りしんどいことも多いでしょうが、患者さんご家族の希望をたくさん秘めた海明けのための存在なのかもしれません。

6月に行われる九十九祭ですが、大学祭実行委員会は広告集めなど1年を通して活動しています。江田さんも祭りが近くなると連日遅くまで準備に励みました。祭りの後、出店場所であるスロープの汚れをみんなでブラシを持って落としているとき、言葉にならない達成感が押し寄せてきたそう。

## 全学教育科目

個性差健康科学  
1年次 必修

知的好奇心  
大満足の授業です！

今回のレポーターは

薬学部薬学科2年 森 数馬 さん  
神奈川県 鎌倉高校卒

三代目薬学部SCPとして活躍中。植物研究部所属。「ひどいアレルギーが、当別移住でよくなりました!」。

## 全学部で1年次、必ず受ける授業。 理事長や学長の講義もあります!

先生も取り上げるトピックスも  
毎回違います。

「個性差健康科学」は、どの学部学科に入学しても1年次に必ず受ける全学教育科目の一つです。文系と理系が融合された、本学らしい授業と言えると思います。講義を行う先生は毎回違い、全学部、バラエティに富んだジャンルから集められています。

学外の方が見ると一見バラバラに見えるかもしれませんが、キーワードは「個人」「個性」というときに使う「個」です。他の学生同様に私も医療を志して入学したので「個」と聞いてます思い浮かべたのは「オーダーメイド医療」や「遺伝子」あたりだったんですが、この授業ではもっと広く、文学や環境などを通して「個」を考えることもできました。この授業がなければ在学中に接点をもてなかったであろう先生の話も聞けますし、理事長や学長の授業を受けられることも大きな魅力です。なかなか得がたい機会ですからね。

各研究分野のエッセンスが  
ぎゅぎゅっと凝縮されています。

テストの点数を取るために取り組む科目とはひと味違う、自分から目が向かなかった分野の知識を得たり、何かを深く思考するきっかけをもらえる授業です。毎回1話完結、各先生の研究分野のエッセンスがぎゅっと詰まっている、おもしろいところ取り、贅沢な授業と言えるかもしれません。

先生方は本当に個性豊かですが、講義内容への私たち学生の反応もそれぞれに違います。薬学部生ですから「DNA」「ES細胞」などの話に強く反応する人がもちろん多かったのですが、意外に、文学など文系とされる内容に新鮮さを感じて



2010年度「個性差健康科学」講義一覧

ガイダンス	・個という視点 ・私が存在することの奇跡 ・講義内容と目的の説明	大学教育開発センター准教授 花洲 馨也
個性差健康科学への誘い	・建学の理念 ・個性差健康科学とは ・文理統合の理念 ・共感による結びつき	理事長 廣重 力
個と社会① 私って誰?	・「私」の発見と「私」になること ・他己像と自己像との隔たり ・我とわれわれの関係	心理科学部教授 小野 滋男
個と社会② 「権利」をめぐる冒険	・「1984年」と村上春樹 ・「ぼくは勉強ができない」-社会と個人 ・「権利」の意味と意義	薬学部講師 森元 拓
個と社会③ 健康な個人が健康な社会を作る	・貧困と健康の公衆衛生学 ・個の確立と開発援助 ・個と社会 -まとめ	薬学部教授 半田 祐二郎
個の健康と環境① 心の健康とストレス	・現代社会と心の時代 ・心の仕組みとストレス ・ストレスを感じる人、感じない人	心理科学部教授 坂野 雄二
個の健康と環境② 環境と免疫応答	・花粉症は現代病? ・免疫力を高めるには ・新興・再興感染症とは?	薬学部講師 大澤 宜明
個の健康と環境③ 生活環境とあごの健康	・顎関節症機能の進化と障害 ・環境や民族による差異 ・生活環境と健康の関わり ・個の健康と環境 -まとめ	薬学部教授 中山 英二
遺伝子と個性差医療① ヒトの個性差とゲノムの多様性	・遺伝子とゲノムとは ・ヒトの個性差とゲノム ・病気になるやすさへの影響	学長 新川 詔夫
遺伝子と個性差医療② 遺伝子は変えられないのか?	・設計図としてのDNAと進化 ・エピジェネティクスとは ・環境や行動がもたらす変化	個性差健康科学研究所准教授 太田 亨
遺伝子と個性差医療③ 遺伝子から見る個性差	・一塩基多型と生体反応 ・遺伝子と病気 ・薬物治療と遺伝子治療	薬学部講師 浜上 尚也
遺伝子と個性差医療④ オーダーメイド再生医療の近未来	・ES細胞は万能細胞か ・iPS細胞の誕生 ・自分の臓器は再生できるのか? ・遺伝子と個性差医療 -まとめ	薬学部講師 荒川 俊哉
個とケアの倫理① 当事者と向き合う	・べてるの活動のはじまり ・当事者論の展開 ・個々の当事者とどう向き合うか	看護福祉学部教授 向谷地 生良
個とケアの倫理② 最期の晩餐は?	・終末期医療とは ・がん患者が最後に選ぶこと ・個々の患者をどう看取るか	看護福祉学部教授 平 典子
個とケアの倫理③ 遺伝子時代の生命倫理	・先端医療とは ・多様な価値観と日本の生命倫理 ・本学が育む新医療人とは ・個とケアの倫理 -まとめ	名誉教授(前学長) 松田 一郎

引き込まれる学生もいるんです。

こうしてあらためて振り返ると、本当にどの回も興味深かったと思います。廣重理事長が熱く語った「患者さん一人ひとりをちゃんと見る医療人に!」というメッセージは医療の世界をはじめた私たち薬学部生の心に刻まれ、モチベーションが上がりました。出演したテレビ番組を見たこともあって楽しみにしていた新川学長の耳あか遺伝子の話も期待以上でした。

1年次で最も“優”を取るのが  
困難と言われています。

80分授業のうち先生の講義は60分ほど、残りの時間でその日取り上げたテーマについての

まとめや自分の考え、感想などを書いて提出します。話した内容から出題される小テスト形式の回もありました。

その場で提出しなければならないので、時間内に考えを整理すること、端的にまとめる文章力が必要とされます。これが意外な難所でした。話題は最先端の科学だったり、人間の深い部分に触れる倫理だったりしますから、書きたいこともたくさん出てきますし。そのため学生の間では「最も“優”を取るのが難しい科目」と言われています。

私の成績ですか?それはみなさんのご想像にお任せしますね。一応言っておきますと、よく外見から勘違いされますが勉強はあまりできません(笑)

## 学友会

「学友会」は学生の課外活動組織で、学友会長(学長)の下、「体育局」「文化局」「大学祭実行委員会」から構成され、学生により運営されています。体育局、文化局では、各局所属のクラブ・同好会から選出された学生が局長・次長・局員となり、クラブ間の調整や取りまとめ、またイベントの企画や実施を行い、大学祭実行委員会では委員長・副委員長の他、会計や広報など機能別の役割担当が置かれ、学生による大学祭の企画・運営が行われています。

学友会組織をまとめ、運営方針の策定や調整をはかるために「学友会運営委員会」が置かれています。この委員会は、体育局長・次長、文化局長・次長、大学祭実行委員

長・副委員長、各学部学生部の教員から構成され、学生が議長となり、主にクラブ・同好会の新設・改廃・昇降格や学友会予算の運用・執行について協議しています。また、各クラブの戦績報告や、大学祭の企画の精査および実施報告、学友会施設について等、学生の課外活動に係る事項について総合的に議題に取り上げられています。

学友会はSCPと共に学生の代表とも言える組織です。学友会所属団体のみなさんと、学生生活をより良く過ごすための意見や要望がありましたら、各局長や委員長までお寄せください。

### ■学友会年間行事予定

4月	新入生オリエンテーションにて クラブ紹介(体育局・文化局)
5月	
6月	九十九祭(大学祭実行委員会) 社行会(体育局)
7月	北海道地区大学体育大会 (体育局所属クラブ参加)
8月	全日本歯科学生総合体育大会 (体育局所属クラブ参加)
9月	
10月	
11月	文化週間(文化局) 球技大会(大学祭実行委員会)
12月	
1月	
2月	
3月	

## 体育局



体育局長  
澁谷 友明  
(薬学部3年)

### 体育局長としての一年

私が体育局長になったいきさつを話します。始まりは体育局員として局長をサポートする仕事でした。先輩には「何も仕事ないから」と言われ引き受けたのですが、当時の局長が任期半ばで辞めることになり、私が局長を引き継ぐことになりました。

局長となって最初の仕事は定例会の開催でした。体育局所属のクラブ・同好会から代表者を招集し、活動状況のチェックや連絡事項の伝達等のため毎月開催しているのですが、時期により楽と苦があります。次に、学友会から各クラブに配分した活動費の決算面談をしました。多くのクラブ・同好会と面談をするのですが、連絡がつかない、時間を守らないといったことなど、思い通りにならず、苦労したこともありました。他には、新入生に向けての部活紹介、また社行会の司会をしました。局長の仕事の中でも一番大変だったのが、春先に行う予算面談です。限られた予算内で各クラブ・同好会に活動費を配分しなければなりません。それぞれの意向を反映させたりと調整が難しいのですが、例年よりは揉め事が少なかったようなので上手こなせたと思っています。

引き受けた当初はあまり嬉しくなく、また局長としての仕事が大変な一年でしたが、次長や学生支援課の人たちにも助けてもらいやり遂げることができました。正直、やってよかったという気持ちは少ないですが、人として成長出来たかなと思い、感謝しています。

## 文化局



文化局長  
井上 舞子  
(薬学部3年)

### 文化局の活動を通して

私は2010年4月から文化局長を務めさせていただきました。文化局の活動の一番大きなところは文化週間の企画・運営です。今年もよりたくさんの方に見ていただこうと、昨年度に引き続きポスター制作を行いました。また、学祭で行った学術発表やステージ発表を見に来られなかった方にもわかるように、事後報告という形で、学友会掲示板にそれぞれの団体の写真と文化局員が見た感想を掲示し、さらに各部署がみなさんに伝わるよう文化局執行部一同工夫を凝らしました。

文化局の仕事として一番重要なことは、各団体の活動がより円滑に行えるよう手助けをすることです。文化局執行部として各団体の日々の活動もより良いものを目指し活動しています。

文化局長として1年間やってきましたが、文化局長になった当初は、人に物事を伝えることが苦手なのでこの仕事に務まるか不安でした。しかし、文化局員をはじめたくさんの方々を支えられ、無事仕事を務めることができ、たくさんのごことを得ることができました。この場を借りて、他の文化局員、各団体みなさん、その他協力して下さった方々に感謝申し上げます。本当にありがとうございました。最後に、これから新しい代の文化局執行部が始まりますが、所属団体がより良い活動ができるよう心がけ、さらに活動が活性化することを願っています。

## 大学祭 実行委員会

### 「九十九祭」を振り返って



大学祭実行委員長  
村山 亮  
(薬学部3年)

私は人前で発言するのが得意ではありません。大学祭実行委員会に入ってから2年間、大変な仕事も殆ど無くこのまま隠居出来るのではと思っていたのですが、去年いつの間にか委員長座についていました。初めは「こんな自分が指揮をとって大丈夫なのだろうか?」と思っていましたが、この1年間の数々の経験が私を大きく成長させてくれ、「九十九祭」を無事やり遂げることができました。

そんな私が任期を終えることができたのは、多くの支えがあった事が大きいと思います。それは、私を最後まで支えてくれた大学祭実行委員のみなさんがいてくれたからです。彼らの力が去年の「九十九祭」をより良いものとしてくれました。また、「九十九祭」は出店・学内展示をして下さった学生方、当別町など外部団体の方々による、多くの人々の協力の上で成り立っています。その方々の支えのおかげで去年も祭りを開催するこ

とが出来ました。この場を借りて、心から感謝したいと思います。

去年の「九十九祭」は天候に恵まれ、一昨年とは違う新しい企画を盛りこみましたので、楽しんでいただけたかと思います。しかし、反省点は多々ありました。今年はその経験を活かして、より一層笑顔の絶えない「九十九祭」にしてくれることを願っています。そして、一緒に祭りを盛り上げて下さる皆様のご協力をよろしくお願い致します。

## ■ ストラスブール大学と学術交流協定を締結しました。

2010年12月13日(月)、フランス・ストラスブール大学歯学部と本学歯学部との学術交流協定締結の調印を行いました。

調印式はストラスブール大学で行われ、本学からは、有末歯学部長、半田教授、安彦教授、長野助教の4名が出席しました。

ストラスブール大学の、Alain BERETZ学長、Youssef HAIKEL歯学部長、本学の有末歯学部長が協定書にサインした後、調印を祝しレセプションが行われました。

また、調印式に同行した個体差医療科学センターの安彦教授が特別講演を行いました。



ストラスブール大学は、フランス東部で仏独国境をなすアルザス州の州都、ストラスブール市にあります。同大学は1537年に設立されました。2009年には、アカデミズム強化策として同市にあった複数の大学を

統合してフランス国拠点大学のひとつとなり、現在は38学部、42,000人の学生、6,000人の教職員を有する総合大学となっています。

また、フランスでは、歯学部の基礎系を含む基礎医学の研究や教育の機能がフランス国立衛生医学研究所に集約されているのが特徴で、ストラスブール大学歯学部も当該研究所に要員を配しています。

今後、教職員や学生の活発な相互交流が期待されます。



ストラスブール大学は、2009年に理系のルイ・バスクール大学、人文科学系のマルク・ブロック大学、社会科学系のロベール・シューマン大学の3大学が合併。フランス人学生だけでなく、各国からたくさんの留学生が集まる国際色が豊かな大学。

### EDITOR'S NOTE

政府の新成長戦略によれば、我が国はこれから「イノベーションを伴った健康大国戦略」を打ち立てるのだそう。老人にはできるだけ長く納税者であり続けてもらいたい、と言っているように聞こえてしまうけれども、まあ、それが良いかどうかは別として、エイジングに伴う機能低下をどう補償するかという物心両面からの研究が不可欠になるだろう。私は、うちの強みは「入れ歯と補聴器が揃っている」ことだと思っている。さらに、「福祉」もある。これはもはや出番ではないか？本学は、北海道の高齢化社会を支えることができる資源の揃った唯一の貴重な大学である。イノベーションとは、金をかけることではなく発想そのものを変えることだ。「入れ歯と補聴器」のワンパック型宅配医療っていうのはどうだろう。老人が雪の中を病院までやってきて、、、という医療はそろそろオシマイにして。さあさあ、みなさんの出番ですぞ。

(T.T記)

## ADVANCE

北海道医療大学広報誌 No.146

STAFF ● 増田 国子 派上 尚也 中山 英二 鎌口 有秀  
白石 淳 伊藤 道子 大槻 美佳 富家 直明  
安彦 善裕 杉原 佳奈 長原 利明 宮川 雄一  
戸藤 成人

発行日 ● 2011年3月9日

編集・発行 ● 北海道医療大学広報・教育事業部 入試広報課  
〒061-0293 北海道石狩郡当別町金沢1757  
☎(0133)22-2113  
http://www.hoku-iryo-u.ac.jp

広報誌についてのご意見・ご要望・情報等をお待ちしております。  
E-mail:nyushi@hoku-iryo-u.ac.jp

■北海道医療大学の教育理念  
生命の尊重と個人の尊厳を基本として、保健と医療と福祉の連携・統合をめざす創造的な教育を推進し、確かな知識・技術と幅広く深い教養を身につけた人間性豊かな専門職業人を育成することによって地域社会ならびに国際社会に貢献することを本学の教育理念とする。

